

1

特集

卒業式・大学院修了式を挙行 対面開催は3年ぶり

 Vol. 31
 May
 2022

3月24日(木)、令和3年度埼玉大学卒業式・大学院修了式を挙行し、学部学生1,530名、大学院博士前期課程学生529名、博士後期課程学生24名が埼玉大学を巣立ちました。令和元年度および2年度の卒業式は、新型コロナウイルスの影響で中止や規模を縮小しての開催であったため、学生や保護者の方々が会場に集まったの開催は、平成30年度(2018年度)の卒業式以来3年ぶりです。

例年は大宮ソニックシティ大ホールで開催している卒業式ですが、今年度はソーシャルディスタンス確保のため、より多くの座席を用意できるさいたまスーパーアリーナに会場を変更。開場時間が近づくと、さいたまスーパーアリーナ前の広場はスーツや袴を身にまとった多くの卒業生で華やかな雰囲気に包まれました。

式では坂井貴文学長から各学部、研究科の代表者へ学位記が授与され、その後の式辞で「今回のパンデミックのように、事態が複雑で常に変化し、次に何が起きるのが不透明な時代を迎えようとしています。時代の激流の中にのみこまれることなく、常に学び考え、他者と協働し、自己を確立して、皆さん自身の人生を力強く歩んでいってください」と、コロナ禍を乗り越え門出の日を迎えた卒業生にエールを贈りました。

続いて、学士課程、修士課程、博士後期課程代表者がそれぞれ埼玉大学で過ごした日々を振り返り、これまで支えてくださった方々への感謝や今後の抱負を述べました。



▲学位記授与



▲修了生代表挨拶

式次第

- 一、開式の辞
- 一、学位記授与
- 一、学長式辞
- 一、卒業生代表挨拶
- 一、修了生代表挨拶
- 一、学部長等祝辞
- 一、梶田隆章賞授与
- 一、閉式の辞



▲ソーシャルディスタンス確保のため、約6,800席の座席を1席ずつ空けて着席いただきました



▲ご卒業おめでとうございます!



▲留学生の皆さんにもご来場いただきました

2 教育 埼玉大学東京ステーションカレッジ開校20周年記念シンポジウムを開催

3月5日(土)、社会人向け夜間大学院として数多くの人材を輩出してきた埼玉大学東京ステーションカレッジの開校20周年を記念して、東京都千代田区の「ホテルグランドアーク半蔵門」にて「ポスト・コロナのレジリエンス社会構築」をテーマにしたシンポジウムが開催されました。

埼玉大学の禹宗杭 経済学部長(当時)と坂井学長、そして来賓として招かれた日本銀行 副島豊 金融研究所長の挨拶からスタートしたシンポジウムのメインプログラムは、東京ステーションカレッジの修了生3名をパネラーに迎えたパネルディスカッション。その様子を目にしようと、会場には事前予約された方々がつめかけ、関心の高さが伺えました。

パネラーを務めた京都府立大学 伊藤敦 公共政策学部教授、二松学舎大学 中垣陽子 国際政治経済学部教授、日本証券アナリスト協会 神津多可思 専務理事はそれぞれの研究内容を発表した後、ファシリテーターの埼玉大学 伊藤修 経済学部教授が提示した「日本の潜在的な力が発揮されない阻害要因とそれを取り除く解決法」「レジリエンス社会構築のために社会人大学院が果たすべき役割」をテーマに意見を交換。「日本には失敗を許容する文化が必要なこと」や「社会人大学院は人生100年時代に継続的な学びを提供する場としてますます重要になること」など興味深い意見が聞かれました。

シンポジウム最後の閉会挨拶では、埼玉大学 井原基 次期経済学部長が、東京ステーションカレッジの今後について言及。従来の研究志向という理念は継承しつつ、時代の変化に合わせて学びのカタチを変えていく考えを示し、2時間に及ぶシンポジウムを締めくくりました。



▲パネルディスカッションの様子

3 教育 埼玉大学・埼玉県立大学 包括連携協定を締結

埼玉大学と埼玉県立大学は、研究、教育、地域貢献などにおいて協力関係を深めるため、3月25日(金)に包括連携に関する協定を締結しました。

さいたま市浦和区の埼玉会館で行われた締結式では、本学の坂井学長、埼玉県立大学の田中滋理事長、星彦学長が協定書に署名し、今後の連携に向けた抱負が述べられました。

本学と保健医療分野に強みを持つ埼玉県立大学は学部が全く重複していないため、それぞれの特長や両大学が有する人的・物質的資源を有効活用した共同研究実施などの取組が期待されます。



▲(左から) 埼玉大学 坂井学長、埼玉県立大学 田中理事長、星学長

4 教育 後世に残したい、私の国・地域の文化 教養学部専門科目「Introduction to Japanese Culture」より

本学フェローで元ガボン共和国特命全権大使の加藤基氏がコーディネーターを務める本科目は、留学を目指す学生や海外からの留学生を主な対象とした国際共修授業。各回の講義に日本文化・芸術に造詣が深い方々をお招きし、日本文化に関する理解と知見を深めます。

1月13日(木)の授業では、「学生自身が後世に伝えたいと思う文化」の発表を行い、世界を舞台に活躍する際に不可欠な「自国文化の発信」を体験しました。日本人学生からは「牛深ハイヤ」「着物」さらにはコロナ禍で失われつつある「忘年会」などが紹介され、オンラインで受講している留学生からは「年貨大街(台湾)」「トック(韓国)」「シチェドリーフキ(ウクライナ)」などが紹介されました。



▲ウクライナの文化紹介の一場面

5 国際 埼玉大学ESITI留学生プログラム ポスターセッション2022を開催

3月2日(水)、大学院理工学研究所「Energy System, Information Technology Innovation International Professional Program (エネルギーシステム・情報通信技術革新国際人材育成プログラム:通称 ESITI留学生プログラム)」に参加する留学生らによるポスターセッションが開催されました。

当日は19名の学生(日本人学生2名、留学生17名)が発表者として参加。ブースを訪れた来場者に日頃の研究成果を発表しました。

このポスターセッションには企業の方々にも多数ご来場いただき、学生達の発表をご覧いただきました。

本セッション代表の情報工学科 島村徹也教授は「初めての企画でしたが、思ったより充実したイベントとなって良かったことを嬉しく思います。実際に日頃の研究成果をこのような形で皆様の前で発表することで、留学生たちのモチベーションも上がって非常に良い企画ですので、是非また開催したいと思います。」と今回のポスターセッションを振り返り、今後へ向けた抱負を述べました。



▲ポスターセッションに参加された皆さん

令和3年度3月期学生表彰を挙行 ―優れた学術研究・課外活動の成果を称えて―

3月18日(金)、令和3年度3月期学生表彰式を開催しました。

この表彰は、学術研究等の成果が優れている学生、課外活動の成果が特に顕著である学生、社会活動において優れた評価を受けた学生、その他表彰に値すると認められた学生を表彰する制度です。今回は個人表彰13名および団体表彰5団体に対して坂井学長から表彰状が授与され、学生後援会より記念品が贈呈されました。



▲坂井学長(中央)と受賞者ら

学長室を絵画で彩ってくれた学生へ感謝状を贈呈

学長室には教育学部生の絵画作品が3点飾られており、空間を鮮やかに彩るとともに、訪れる方々の心を和ませてくれています。

3月10日(木)、絵の制作者である教育学部の森本将希さん(作品:空中感覚世界)、中村ジュリアさん(作品:感情のシンボル化)、平良瑞希さん(作品:光暈(こううん))と小澤基弘教授が学長室に招かれ、学長から感謝状が贈呈されました。

森本さん、中村さん、平良さんの作品は坂井学長自ら美術講座の展示会に赴き、展示されている作品の中から選定したもので、坂井学長は「作品が飾ってあることで部屋の雰囲気が変わった」と、今回の協力に感謝の意を表しました。



▲森本さんの作品の前で(左から)小澤教授、平良さん、中村さん、森本さん、坂井学長

埼大生が写真を通して車椅子バスケットチームを応援

2月20日(日)～2月26日(土)の7日間、浦和PARCO9階で、車椅子バスケットボールチーム「埼玉ライオンズ」×「埼玉大学写真部」の合同企画による写真展「全員が主役」が開催されました。

この写真展では、埼玉大学写真部の部員が撮影した「埼玉ライオンズ」の練習風景の写真約50枚を展示。中でも埼玉ライオンズと埼玉大学写真部のメンバーの投票で決まった1枚を約8,000枚の写真で表現したモザイクアートは圧巻で、会場を訪れた人々は作品に見入っていました。



▲写真展に携わる写真部の皆さんと、約8,000枚の写真を使用したモザイクアート(写真右)

植物を食べる昆虫の分布を決定する新たなメカニズムを発見 ～植物間の干渉が植食性昆虫を引き寄せる～(大学院理工学研究科 川合真紀教授 共同研究)

大学院理工学研究科 川合真紀教授、宮城敦子助教(現山形大学准教授)と弘前大学との共同研究チームは、植物同士の干渉が葉の成分の変化を介して植食性昆虫の分布に影響していることを発見し、2021年12月31日に「Functional Ecology」誌に研究成果が掲載されました。

近隣の植物の存在によって葉の成分が変化する現象は、様々な植物種で報告されています。それらの植物を利用する植食性昆虫の分布もまた植物間の干渉による葉の成分の変化の影響を受けている可能性があります。今後は、植物同士の関係性を考慮しながら様々な植物と動物の相互作用を捉えることで、植物を餌とする動物の分布を決定する共通のメカニズムに迫ることができるかもしれません。

10 学生 「梶田隆章賞」に理学部 野中さんと工学部 杉下さん 2名同時受賞は史上初!

令和3年度「梶田隆章賞」は、電界効果トランジスタ (FET) の性能を向上させる研究に取り組む、理学部 基礎化学科 野中菜々子さんと、人工知能 (AI) を支える技術である機械学習に関する研究に取り組む、工学部 情報工学科 杉下直輝さんが受賞しました。2名の学生が受賞するのは、賞の創設以来初となります。

今回の受賞についてお二人は、「大学時代に積み重ねてきたことが評価され、受賞したことが自信にもつながりました。これからは、その自信を胸に抱きながら、ひたむき、かつ地道に勉強や研究に励んでいきたいと思います。(杉下さん)」、「これからの研究者人生では、これまで貫いてきた、理屈を突き詰めていく姿勢を大切に、より真摯に研究に向き合っていきたいです。(野中さん)」と語りました。

賞の授賞式は3月24日(木)に挙行された卒業式で行われ、坂井学長よりクリスタル盾と副賞が授与されました。



▲理学部 基礎化学科 野中菜々子さん



▲工学部 情報工学科 杉下直輝さん



▲坂井学長より授与されたクリスタルの盾を持って



オンラインマガジン「SAIDAI CONCIERGE」では、受賞されたお二人にインタビューを行い、受賞の感想や今後の目標等についてお話しを伺いました。是非ご覧ください。

←オンラインマガジン「SAIDAI CONCIERGE」はこちら!

梶田隆章賞とは?

1981年に本学理学部を卒業され、2015年にノーベル物理学賞を受賞された梶田隆章先生(東京大学宇宙線研究所・教授)の栄誉を称え、梶田隆章先生の寄附をもとに設けられたのが「梶田隆章賞」です。次世代の若手研究者の育成を推進することを目的として、2017年度の創設以来、学業において優秀な成績を収め、高い研究者への志を有する大学院進学予定の学生を毎年表彰しています。

埼玉大学基金室より 埼玉大学基金のご案内

埼玉大学基金は平成25年11月の設立以来、皆さまからのご理解とあたたかいご支援をいただいております。現在、下図のとおり大学の機能強化、学生支援の充実を目的とすご寄附を幅広く受け入れております。

ご寄附の方法として、金融機関からの振込・払込のほか、指定の月に決済が行われる継続寄附も可能なクレジットカード決済をご用意しております。

また、不要となった本やDVD等をお送りいただくことで、その査定額をご寄附いただけるリサイクル募金「きしゃぼん」を導入しております。

詳細は下記ホームページをご覧くださいませようお願いします。今後とも埼玉大学基金へのご理解とご支援をいただければ幸いです。心よりお願い申し上げます。

埼玉大みらい基金

【募集期間】2019年11月～2024年3月

■埼玉大学の機能強化を支援
教育・研究への支援
・教育プログラムの整備充実等
・国際的研究力の向上等

■キャンパス環境整備への支援
・安全・安心・快適なキャンパス整備等

■国際交流事業への支援
・海外留学の促進等
・外国人留学生受入促進等

■社会連携事業への支援
・地域・社会との連携充実等
・企業との連携強化等

■その他基金の目的達成に必要な事業

■学生への奨励事業の実施
特に優秀な学生への給付型奨励金制度の創設

冠奨学金基金

寄附者の方の想いに沿った奨学金制度を創設

一定額以上(30万円以上)を寄附した寄附者(法人・個人)が、奨学金名称、奨学金の額及び対象学部等を設定いただけます。

特定基金

埼玉大学修学サポート基金

経済的理由により修学に困難がある学生等の支援

・授業料・入学金減免事業
・奨学金事業
・海外留学支援事業
・TA・RA事業

◆埼玉大学基金へのご寄附の累計額

令和4年 3月末の状況 **666,539,429円**

うちリサイクル募金「きしゃぼん」によるご寄附 **1,347,122円**

埼玉大学基金室(総務部広報渉外課内) ☎048(858)9330 ✉s-kikin@gr.saitama-u.ac.jp 🌐http://www.saitama-u.ac.jp/funds/

